

君の名は。

～宿舎全全全世帯間のコミュニケーションを深めよう～

班員： 徳田伊織(班長) 李屋溪造(副班長) 桑原里奈(渉外) 鈴木賢人 信賀春輝
中野奈美(印刷) 太田和志(DB) 西美佳(書記) 長山寛之
指導教員： 甲斐田直子 TA： 増田祐太郎

1 はじめに

1.1 背景

筑波大学には、一の矢・平砂・追越・春日の4つのエリアに分けて、全部で69棟もの学生宿舎がある。入学する新1年生を主な入居受け入れ対象とし、毎年多数の応募がある。

宿舎では同学類に限らず様々な人と暮らし、共同のキッチンや洗濯スペース等を使うことを通して交流の機会が多くあるだろう。しかし、実際に蓋を開けてみると、宿舎で隣室や同じ棟に住んでいるにも関わらず顔と名前が一致しない、同じ棟でも話したことがない人が何人もいるなどコミュニケーションが満足に取られていない状況が生まれている。また、入居者には宿舎に1年間住む権利があるが、途中で退去してしまう人も少なくない。現在のこの状態は、入居者同士の「気まずさ」など、快適な宿舎生活を送る上での弊害となっている。或いは、この状態を放置することは、防犯・防災面における脆弱性を増長させることにもなるため、好ましい状態ではないと考えられる。

現在、最も古い宿舎は昭和49年築であり、未改修棟の経年劣化による悪い生活環境に対する不満は避けられない。しかし、宿舎での生活に魅力がない・つまらない等、ソフト面が原因ならば、我々で工夫して改善することができる。こうして我々は、コミュニケーションの適切化による宿舎生活の充実度向上の可能性に着目し、本実習のテーマとした。これが達成されることによって、長期的には、宿舎の防犯・防災性の向上、自体の印象の向上、ないしは思い出・友達・社交性といった人生の財産の創生にも繋がると考えられる。

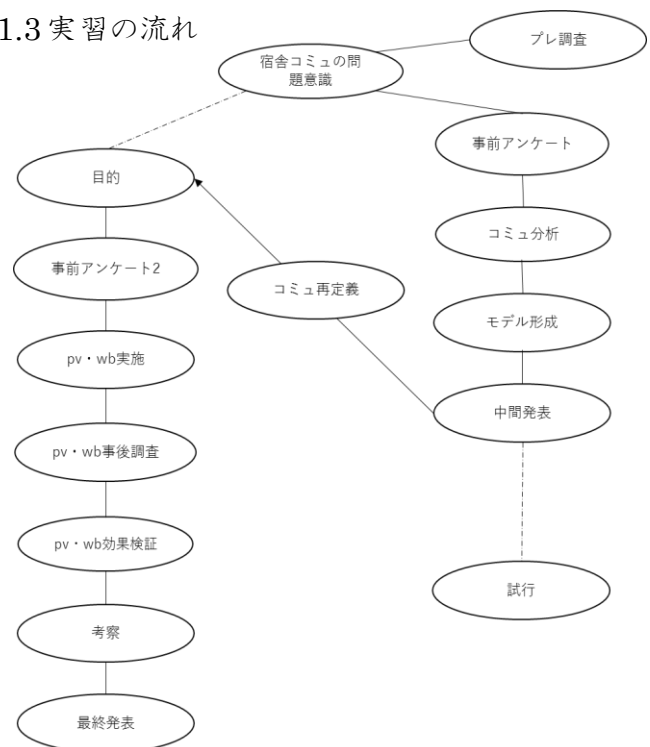
1.2 目的

我々は、「望んでいるにも関わらず、宿舎で十分なコミュニケーションがとれていない」と感じている居住者に焦点を当てた。その原因は、ただ宿舎に住んでいるだけではコミュニケーションが生じるきっかけがないからであると考えた。そのため、上記のような者に対して、きっかけを与える方策を投じる。宿舎は、「学類やサークルなど所属が異なる人々が共同生活を送る」という点がアパート暮らしとの違いであり、「新たなコミュニケーションが生まれる場」という長所がある一方で、「隣人と疎遠な関係だと気まずい」という短所を併せ持つ。

そこで我々は、コミュニケーションを満足に値する適切な状態にすることで、「近隣住民を知らない」という不安感を解消し、また、居住者間で気を遣わない快適性を創

生することを主たる目的とする。

1.3 実習の流れ



2 用語の定義

・コミュニケーション: 情報のみならず、感情を同じ時かつ同じ空間で共有すること。

SNS や事務連絡では伝わらない感情を、過度の対面人間関係による弊害が起こらない範囲において、同一空間で共有することを示す。

・共用スペース: 学生宿舎居住棟内における共用部分。トイレ、シャワールーム、

洗濯室、補食室、談話室、キッチンに相当する。
※pv: パブリックビューイング
wb: ホワイトボード(連絡掲示)

・交流スペース: 共用スペースのうち、日常生活で必ず使用する部分を除いたもの。補食室、談話室、キッチンに相当する。

・宿舎外交流スペース: 共用棟を指す

・面識がある: アンケート調査にて、「顔と名前が一致している状態」と定義。会話等の交流の有無には依らない。

・近隣住民: 宿舎内の同一フロアかつ周囲 10 部屋程度の居住者。

3 事前アンケート調査とその分析

3.1「筑波大学学生宿舎のコミュニケーションに関する調査」

実施期間	2017年5月31日～6月4日
回答者数	101人

Google フォームを利用、宿舎生を対象として、LINE を主な拡散の媒介にして調査を行った。

回答者属性 n=101

一の矢改修棟	38人
平砂改修棟	33人
追越改修棟	10人
春日宿舎	13人
グローバルヴィレッジ	7人

3.2 コミュニケーションの定義を裏付けるための分析

対面度合いを基準にして、人間関係を8つに分類した。(棟内の人とのコミュニケーションの願望ー現在のコミュニケーション度合い)を乖離度とした。それぞれの人間関係について、重回帰分析と、対象者を乖離度が大きい群と小さい群に分けた t 検定を行い、我々のコミュニケーションの定義の妥当性について調べた。

<人間関係>

- 対面濃い ↑
- ① 特に理由がなくても集まれる関係
 - ② 一緒に食事ができる関係
 - ③ 同じ授業を一緒に受ける関係
 - ④ 外出先で会った時に雑談ができる関係
 - ⑤ 規則など(掃除当番の設定など)が理由で顔を合わせる関係
 - ⑥ 挨拶のみ(会話なし)の関係
 - ⑦ SNSを用いた雑談による関係
 - ⑧ SNSによる事務連絡の関係

表 3.2.1 乖離度とコミュニケーション度合いの重回帰分析
目的関数: 乖離度(理想の度合い)-現在の度合い
説明変数: 各人間関係度合いの回答値

目的関数	人間関係	回帰係数	効果
乖離度	⑥ 挨拶のみ	0.26**	乖離を生む効果あり
	⑧ SNS による事務連絡	0.19*	
	④ 外出先で雑談	-0.28**	乖離をなくす効果あり
コミュニケーション満足度	① 理由がなくても集まれる	0.36**	満足度を上げる効果あり

※**:p<0.05 *:p<0.10

表 3.2.2 乖離度と各人間関係度合いの t 検定

	人間関係
「乖離が小さい人」の回答値が高い関係	④ 外出先で雑談
	① 理由がなくても集まれる
「乖離が大きい人」の回答値が高い関係	⑥ 挨拶のみ(会話なし)
	⑧ SNS による事務連絡

表 3.2.1 の重回帰分析と表 3.2.2 の t 検定から、乖離をなくす、またはコミュニケーション満足度を上げる人間

関係とは①特に理由がなくても集まれる関係、④外出先で会った時に雑談ができる関係であることがわかった。これは、直接会って感情を共有するコミュニケーションといえるので、我々が定義したコミュニケーションである「同じ時かつ同じ空間で感情を共有したい」の妥当性は認められたといえる。

3.3 実験を行うにあたっての分析

まずは、コミュニケーション促進の根拠とすべく、量的なコミュニケーションの増加が、その満足に良い影響を与えることを示す。現状の宿舎でのコミュニケーションの量について6段階で質問し、回答値が低い群(1~3)と高い群(4~6)に分け、コミュニケーション積極度・満足度の平均値の差について検定を行った。検定の結果を表 3.3.1 に示す。

表 3.3.1 コミュニケーション量とコミュニケーション満足・積極度

事前アンケート内分析	低い人の平均	高い人の平均	t 値
コミュ量高低 →コミュ積極度	2.29	4.51	-8.59***
コミュ量高低 →コミュ満足度	3.18	4.51	-5.29**

※ ***:p<0.01

この結果、確かに、量的なコミュニケーションの増加は、コミュニケーションの満足に良い影響を与えているといえ、コミュニケーション促進の根拠が示された。

次に、宿舎内・外交流スペースと、コミュニケーション満足の関係性について調べた。スペースの満足度、使用頻度について、回答値が低い群(1~3)と高い群(4~6)に分け、コミュニケーション満足度の平均値の差について検定を行った。

表 3.3.2 交流スペース満足度とコミュニケーション満足度

事前アンケート内分析	低い人の平均	高い人の平均	t 値
宿舎内交流スペース満足 高低→コミュ満足度	3.38	4.07	-2.52***
宿舎外交流スペース満足 高低→コミュ満足度	3.49	4.06	-1.98**

表 3.3.3 交流スペース使用頻度とコミュニケーション満足度

事前アンケート内分析	低い人の平均	高い人の平均	t 値
宿舎内交流スペース使用頻度 →コミュ満足度	3.26	3.91	-2.25**
宿舎外交流スペース使用頻度 →コミュ満足度	3.56	4.04	-1.54*

※ ***:p<0.01 **:p<0.05 *:p<0.10

結果、以下の内容について述べるができる。

- ① 表 3.3.2 より宿舎内・外の交流スペースの満足度が高い人は、低い人に比べてコミュニケーション満足度が高い。
- ② 表 3.3.3 より宿舎内・外の交流スペースの使用頻度の高い人は、低い人に比べてコミュニケーション満足度が高い。

したがって、宿舎内・外の交流スペースの満足度、使用頻度を高めるような実験を行えば、コミュニケーション満足度を上げられると考えられる。

4 コミュニケーション形成モデル

コミュニケーションが少ない学生宿舎において、図 4.1.1 のように各人のコミュニケーションを増やすように直接アプローチするのみでは不十分である。事前アンケートより、交流スペースの利用がコミュニケーションの適切化に影響していることが分かったため、交流スペースの利用を通して、間接的にアプローチすることを踏まえ、提案を検討した。

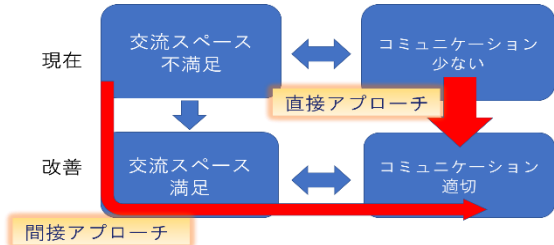


図 4.1.1 コミュニケーション形成モデル

5 提案の検討(ヒアリング調査)

実施日時	2017年5月24日(水)14時～
実施対象	筑波大学学生生活課 大手昇一様 細沼祐介様
目的	提案内容に対して実施可能か、内容の精査を行う。

① パブリックビューイング（面識、雰囲気、出会いの場）

宿舎の居住者同士の対面的なコミュニケーションの場を創成する目的で、宿舎開催のパブリックビューイングを行う。開催場所として、一の矢共用棟とコミュニティステーションを検討。コミュニティステーションが、宿舎生全員が使える場所であることの周知も期待される。

→企画として実施可能とのこと。パブリックビューイングとして相応しい放映内容、時刻、キャパシティ、飲食持ち込み等を検討（詳細は後述）、イベント告知のため、宿舎掲示板にチラシを掲示することも検討するに至る。

② 掲示板（利便性）

有益な情報共有を目的として、交流スペースに掲示板を設置する。スーパーの広告や居住者の所属している団体のイベントの広告等を掲示する。

→広告を掲示する際に許可が必要。また張り替えは誰が行うのかという問題もあり、継続してゆくことが困難。

③ 自己紹介ボード（面識）

宿舎の居住者の情報交換を目的として、一人一人にホワイトボードを配布し、学年、学類、趣味など自己紹介を書いてもらう。それをドアや交流スペースに掲示する。

→ホワイトボードを毎年交換しなければならない上に宿舎生全員に配布するのはコストの面でも困難。

しかし、自己紹介用紙を入居者に配布、補食室に大型の共用ホワイトボードを設置し、そこに用紙を貼ってもらうほか、連絡・伝達事項板、意見板などの用途としても使用させるように、②と③を融合する方法であれば実施可能であることが分かった。

④ 宿舎新歓（面識、雰囲気、出会いの場）

居住者同士のはじめの面識を与えるため、宿舎の入居日やオリエンテーションにて、コミュニティリーダーが中心となって新入生を歓迎する。

→すでに春日宿舎など1部では行われているが、金銭面などを考慮すると全体に強制は困難。

⑤ 未改修棟の塗装計画（出会いの場、景観）

未改修棟の壁の塗装を居住者で行う。一の矢のショートステイハウスにて前例あり。協力によるコミュニケーションの促進、景観改善、宿舎のイメージアップに繋がる。

→未改修棟の廃止、取り壊しが決定しているので困難。しかしみんなで協力して何かを作ることは良い。

⑥ 宿舎集金（資金・財源）

宿舎生に任意で集金を行い、宿舎の交流スペースに自分たちで充実させていく。

→現実的に難しい。特に留学生へ正確に説明できない。

⑦ 宿舎公式 LINE を作成（面識）

宿舎生全員に対しての連絡手段として、メールはあるが登録者数が少ない。より利用率の高い連絡制度の実現のため、LINE アカウントを導入する。

→学生生活課の方で作成を検討

以上より、目的に合致した十分な効果、居住者の需要、経済性、および長期の継続性が見込まれる施策を実施可能なものとして選択した結果、①および②③を実際に試行することに決定した。次に、実施による効果の検証、今後の導入・継続・展開の可能性を考察する。

6 試行と分析

6.1 パブリックビューイング

実施日時	2017年6月7日 19時～
実施場所	コミュニティステーション、一の矢共用棟

試行の 1 つ目としてサッカー日本代表が行ったシリアとの親善試合のパブリックビューイングを行った。試行はコミュニティステーションと一の矢共用棟にて行い、それぞれ 33 人、10 人の学生が参加。試合終了後、参加者にこの試行に関する事後アンケートに回答してもらった。

この試行では、事前に宿舎に住んでいる学生を対象に取ったアンケートとパブリックビューイングの事後に取ったアンケートを比較することにより分析を行った。

表 6.1.1 パブリックビューイング実施後の入居者の変化

事前・PV 事後アンケート分析	前平均	後平均	↑ 値
宿舎外 交流スペース満足の差	3.17	3.94	-2.35**
今後宿舎外 交流スペースを使いたい	3.03	4.33	-3.20***
コミュニケーション満足度の差	3.69	4.44	-2.07**

図 6.1.1 パブリックビューイングの参加理由

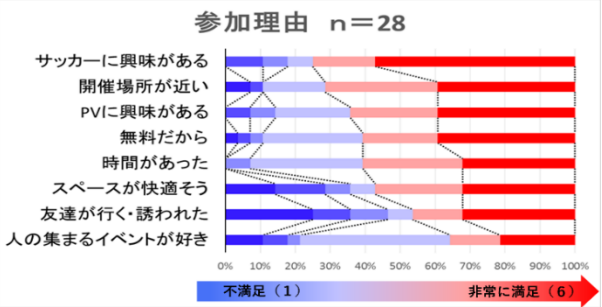


図 6.1.2 パブリックビューイングの満足度

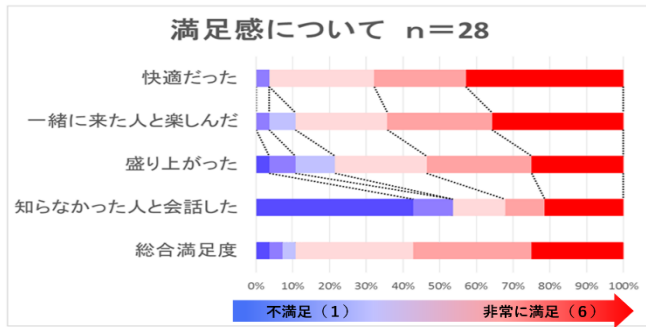


表 6.1.1 ではパブリックビューイングを行ったことにより宿舍外の交流スペースに対する満足度と今後宿舍外交流スペースを使用したいかどうか、コミュニケーションの満足度の項目すべてが上昇していることを示している。

また、図 6.1.1 から人の集まるイベントが好きという人ばかりが集まったわけではない、つまり来た人のコミュニケーション積極度に偏りがあり無かったということが分かるためパブリックビューイングを行ったことが様々な人に対して良い影響をもたらしたといえる。

図 6.1.2 からパブリックビューイングの満足度が分かった。会場の快適性や一緒に来た人と楽しめており全体としての満足度は高いが、知らなかった人との会話が生み出せなかったため今後の課題となる。

6.2 連絡掲示板

実施日時	2017年6月6日～22日（現在も設置中）
実施場所	一の矢1A棟、3A棟

- ・設置場所：各棟2、3階の補食室内部
- ・掲示内容：諸連絡、自己紹介

事前にまず一の矢居住者にアンケートをとり、事前と事後で比較することで試行がどういった効果をもたらすのかを調べた。

当初の目的としては学生間や大学で行われるイベントなどの情報交換を行う場を作り、宿舍の住民同士の交流を図ることだった。

しかし、実際に行った後アンケートを取ったところ期待した成果は得られなかった。実施した棟の入居者に行ったヒアリングなどから要因と考えられるものを挙げる。

① 試行したタイミングがあまり適してなかった

この試行は宿舍内で新たな人とのコミュニケーションを促進するためのものであったが、既にいくつかのコミュニティが宿舍外で出来てしまった後であったためあまり結果が出なかったか。そのため、4月のまだコミュニティができる前に行うと今回とは違った結果が得られた可能性があると考えられる。

② 実験数の少なさ

今回の実験では棟の全員が自己紹介に協力してくれたわけではなく、お互いに情報を共有できなかったことで入居者全員と交流するのには不十分であったと考えられる。

③ 実施期間の短さ

入居者の声としてもっと長い期間行ってほしかったというものがあつたことから、実施期間が17日間とい

う短さであったことで十分に効果を得ることが難しかったと考えられる。

④ 施策が適切でなかった

諸連絡や自己紹介を書いてもらうという事務的ともいえる内容の施策であったことで参加する人が少なくなってしまうか。そのため交流するきっかけとはなりえなかったのではないかな。

改善案としては多くの入居者に興味を持ってもらえるような内容にすれば結果もでると期待できる。

7 今後の提案

① 共用棟

宿舍の住んでいる棟に関わらず宿舍住民同士が仲を深めることを目的として実験を行った。共用棟にプロジェクターや卓球台の設置をし、ゲーム大会や映画鑑賞会を、個人の興味に合う利用が可能な環境づくりを提案する。プロジェクターは精密機器のため、共用棟の管理事務室が管理し、使用人数下限・時間制限などのルール作りを行えば、可能だと考える。

② 宿舍各棟

宿舍棟内では連絡掲示板を設置したが、試行ではうまくいかなかった。自己紹介カードを入居時に配布すれば、新入生全員が互いのことを知り合えるだろうと考える。入居時オリエンテーションで各棟自己紹介を行うのも有効ではないか。また、興味を持てるような掲示板コンテンツを考えることも必要だ。ホワイトボード自体は設置してしまえば管理は簡単にでき、実装する際は各棟に設置したい。

以上のように試行の結果、宿舍棟内・外にかかわらず、居住者のコミュニケーションを満足させるには、多様な「興味」に対応でき、なおかつ気軽に利用できる提案が必要であると考えられる。

8 謝辞

筑波大学学生生活課厚生・宿舍チーム

大手 昇一様 細沼 祐介様

筑波大学施設部

施設サービス課 山田 慶一様

施設企画課 鷲森 航太様

コミュニティステーションの管理人の方々

連絡掲示板の実験・調査に協力してくださった

一の矢学生宿舍 1A棟 3A棟の皆様

アンケートに協力してくださった学生の皆様

環境経済・政策学研究室の学生の皆様

指導教員 甲斐田直子先生 TA 増田祐太郎さん

9 参考文献

都市計画実習 2015 スマートキャンパス班

Why Japanese people! ～どうして宿舍で交流しないの!～

(http://toshisv.sk.tsukuba.ac.jp/jisshu/jisshu1/report/2015/g2_sc/)